

14 介助・援助者の意向

(1) 介助・援助するにあたって困っていること（複数回答）

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=341)	知的障害者 (n=217)	精神障害者 (n=215)
介助・援助の方法がわからない	3.2	4.6	6.5
福祉サービス等の情報が不足している	16.7	20.3	16.3
福祉サービス等が十分に利用できない	13.2	16.6	11.2
余暇など自分の時間が持てない	17.9	16.1	14.9
ちょっとした外出ができない	14.1	12.0	7.0
仕事に出られない	15.2	11.1	9.3
長期的な外出ができない	22.6 (1位)	26.7 (2位)	22.3 (2位)
睡眠不足である	11.4	14.3	8.8
身体的な負担が大きい	19.6 (3位)	18.0	10.2
年齢的に負担が大きい	14.1	20.7 (3位)	16.7
孤独感がある	8.5	13.4	12.1
精神的な負担が大きい	20.2 (2位)	31.3 (1位)	34.4 (1位)
経済的な負担が大きい	17.6	18.4	18.1
他にも介助の必要な家族・親族がいる	6.2	10.6	7.4
他の家族の援助が足りない	2.6	8.3	5.1
隣近所の人との関係づくりが難しい	5.6	12.9	16.3
何かの際に相談や介助を頼める人がいない	11.4	17.1	20.0 (3位)
その他	1.8	7.8	4.2
特になし	15.2	11.5	11.6
無回答	27.9	18.4	28.8

※ベース：介助・援助者

【支援が必要なこと】

(単位：%)

区 分	難病患者 (n=116)
介助・援助方法などの情報	29.3 (2位)
福祉サービス等の情報	36.2 (1位)
福祉サービス等を利用しやすくする	24.1
気軽に相談できる窓口	29.3 (2位)
地域の理解	6.9
その他	3.4
特になし	7.8
無回答	41.4

※ベース：介助・援助者

【前回調査との比較】

(単位：%)

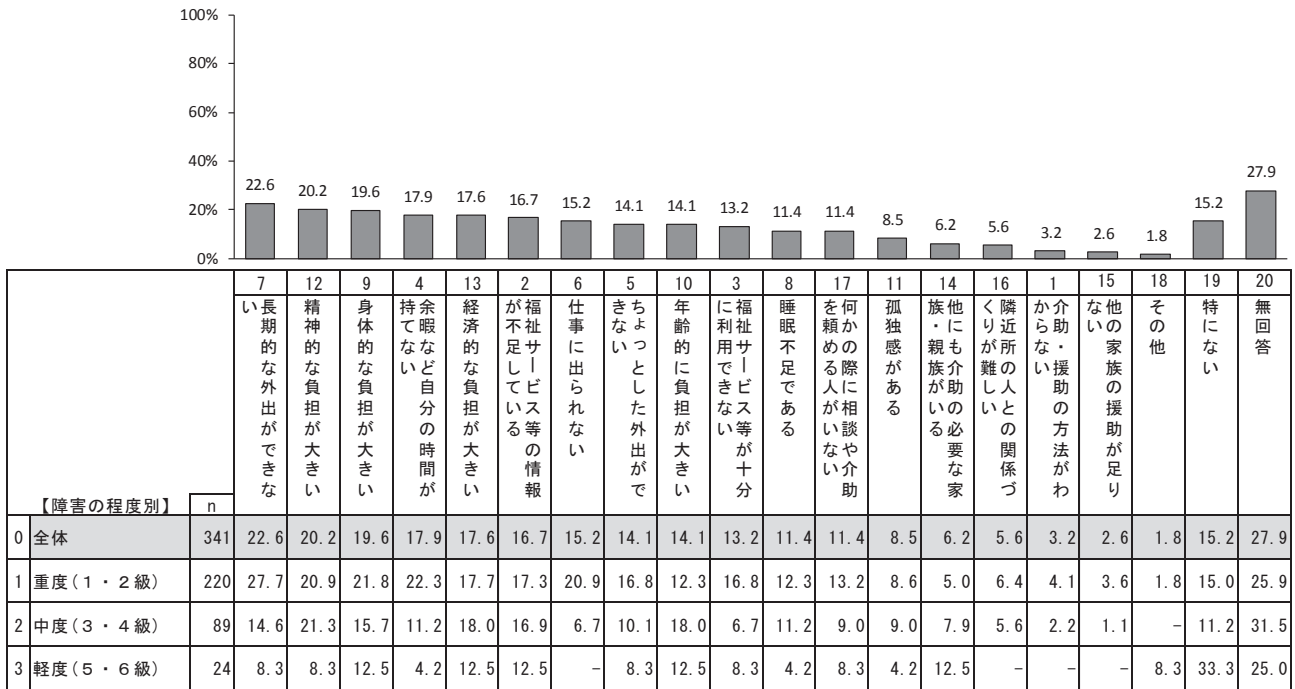
区 分		1位	2位	3位
身体 障害者	今回 (n=341)	長期的な外出ができない (22.6)	精神的な負担が大きい (20.2)	身体的な負担が大きい (19.6)
	前回 (n=1,242)	年齢的に負担が大きい (24.3)	長期的な外出ができない (24.2)	精神的な負担が大きい (21.6)
知的 障害者	今回 (n=217)	精神的な負担が大きい (31.3)	長期的な外出ができない (26.7)	年齢的に負担が大きい (20.7)
	前回 (n=303)	精神的な負担が大きい (43.6)	長期的な外出ができない (36.3)	年齢的に負担が大きい (30.0)
精神 障害者	今回 (n=215)	精神的な負担が大きい (34.4)	長期的な外出ができない (22.3)	何かの際に相談や介助を頼 める人がいない (20.0)
	前回 (n=216)	精神的な負担が大きい (28.2)	経済的な負担が大きい (22.7)	年齢的に負担が大きい (19.0)

※ベース：介助・援助者

【身体障害者】

障害の程度別にみると、程度が重くなるほど、「長期的な外出ができない」「余暇など自分の時間が持てない」の割合が高くなっている。

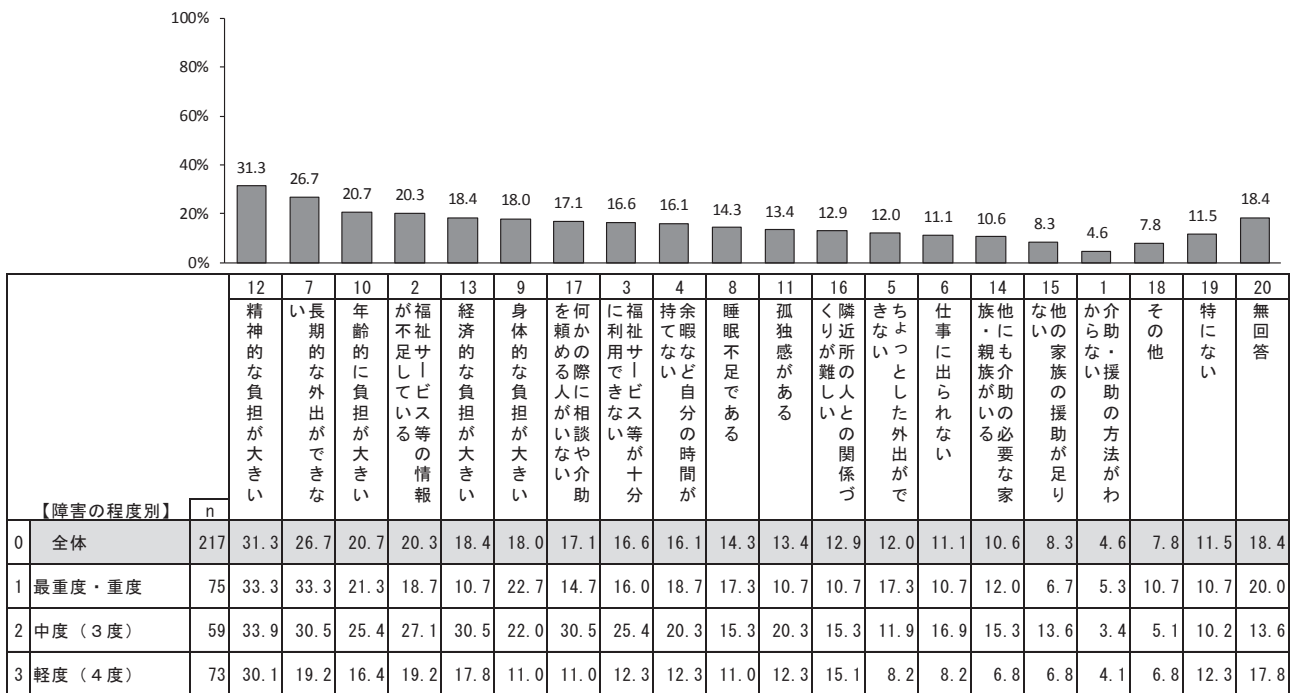
介助・援助で困っていること



※ベース：介助・援助者

【知的障害者】

障害の程度別にみると、どの程度においても「精神的な負担が大きい」が最も多くなっている。

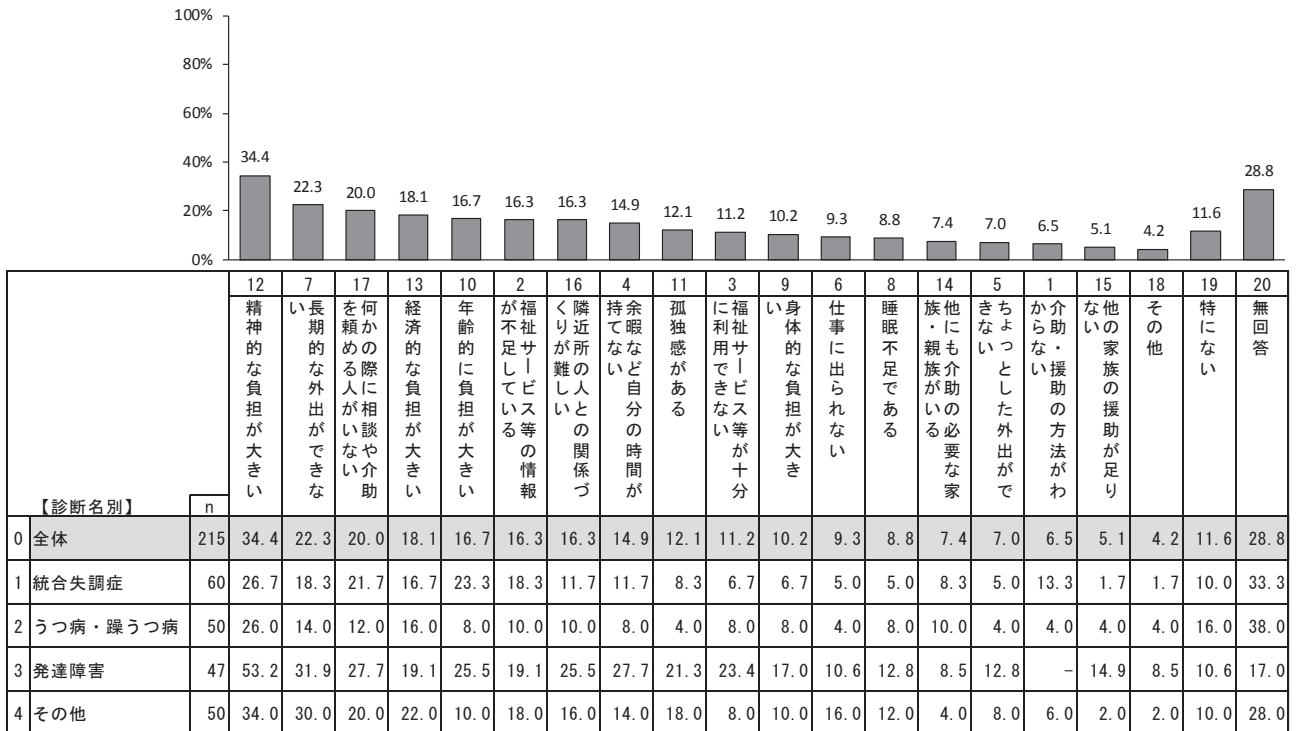


※ベース：介助・援助者

【精神障害者】

診断名別にみると、発達障害と診断されている人では、「精神的な負担が大きい」が最も多くなっている。

介助・援助で困っていること

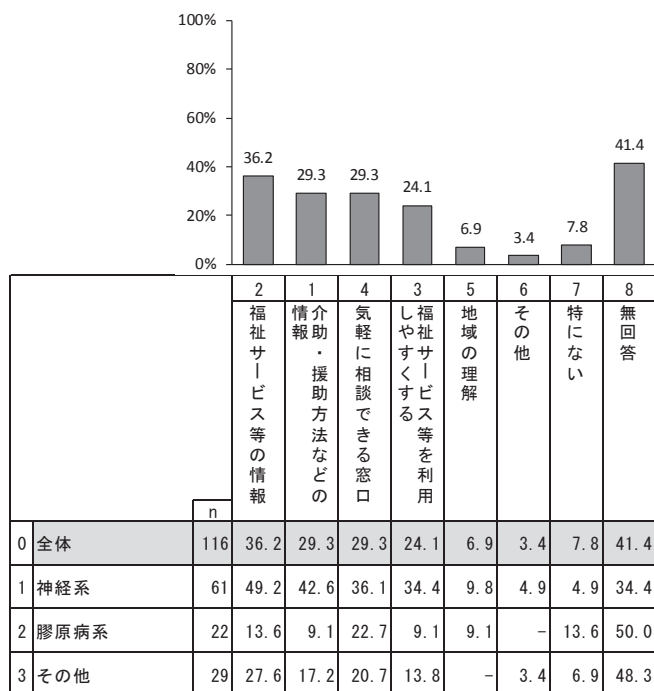


※ベース：介助・援助者

【難病患者】

疾病系統別にみると、神経系ではすべての項目で全体の割合を上回っている。

介助・援助で支援が必要なこと



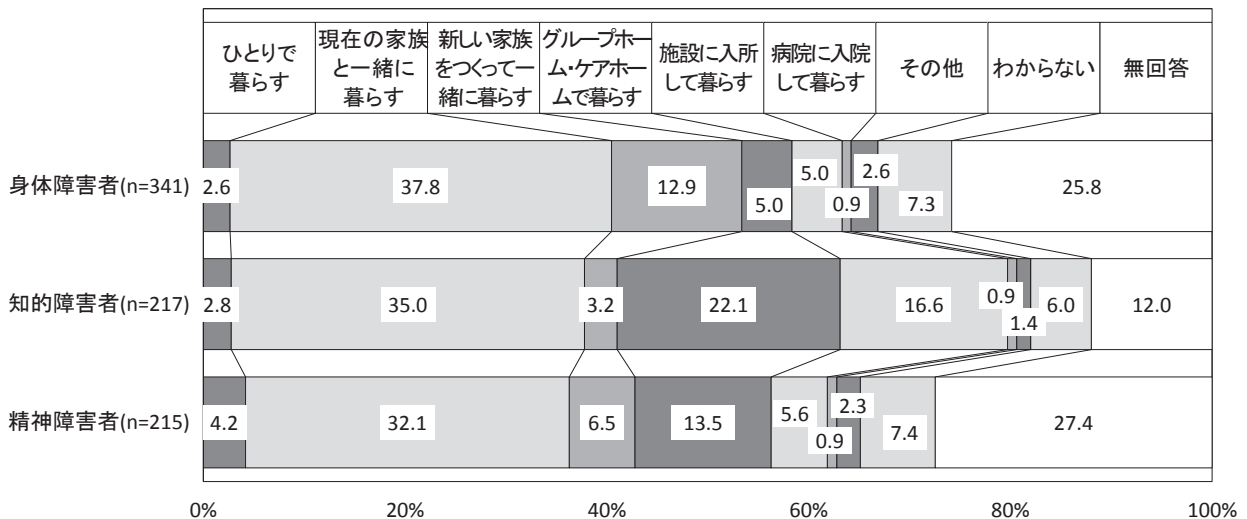
※ベース：介助・援助者

(2) 将来、本人に暮らしてほしい場所

将来、本人に暮らしてほしい場所は、身体障害者の介助・援助者では「現在の家族と一緒に暮らす」が最も多く 37.8%、次いで「新しい家族をつくって家族と一緒に暮らす」が 12.9%となっている。

知的障害者の介助・援助者では、「現在の家族と一緒に暮らす」が最も多く 35.0%、次いで「グループホーム・ケアホームで暮らす」が 22.1%となっており、「施設に入所して暮らす」(16.6%)も約 2 割を占めている。

精神障害者の介助・援助者では、「現在の家族と一緒に暮らす」が最も多く 32.1%、次いで「グループホーム・ケアホームで暮らす」が 13.5%となっている。



※ベース：介助・援助者

【前回調査との比較】

(単位：%)

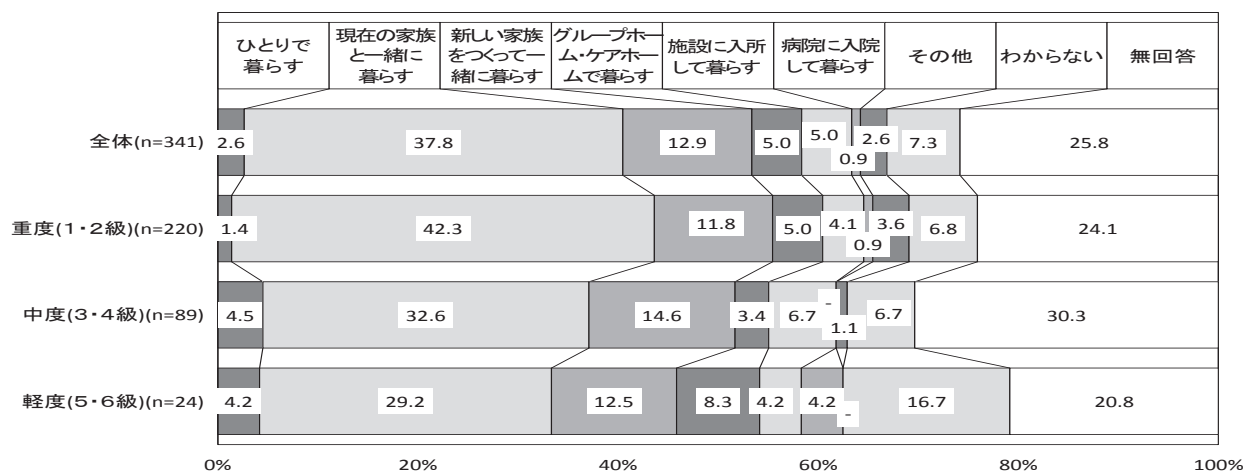
区分		1位	2位	3位
身体障害者	今回 (n=341)	現在の家族と一緒に暮らす (37.6)	新しい家族をつくって家族と一緒に暮らす (12.9)	グループホーム・ケアホームで暮らす (5.0) 施設に入所して暮らす (5.0)
	前回 (n=1,242)	現在の家族と一緒に暮らす (39.9)	施設に入所して暮らす (8.6)	わからない (7.3)
知的障害者	今回 (n=217)	現在の家族と一緒に暮らす (35.0)	グループホーム・ケアホームで暮らす (22.1)	施設に入所して暮らす (16.6)
	前回 (n=303)	現在の家族と一緒に暮らす (27.7)	グループホーム・ケアホームで暮らす (23.4)	施設に入所して暮らす (18.2)
精神障害者	今回 (n=215)	現在の家族と一緒に暮らす (32.1)	グループホーム・ケアホームで暮らす (13.5)	わからない (7.4)
	前回 (n=216)	現在の家族と一緒に暮らす (28.2)	わからない (8.8)	新しい家族をつくって家族と一緒に暮らす (6.0)

※ベース：介助・援助者

【身体障害者】

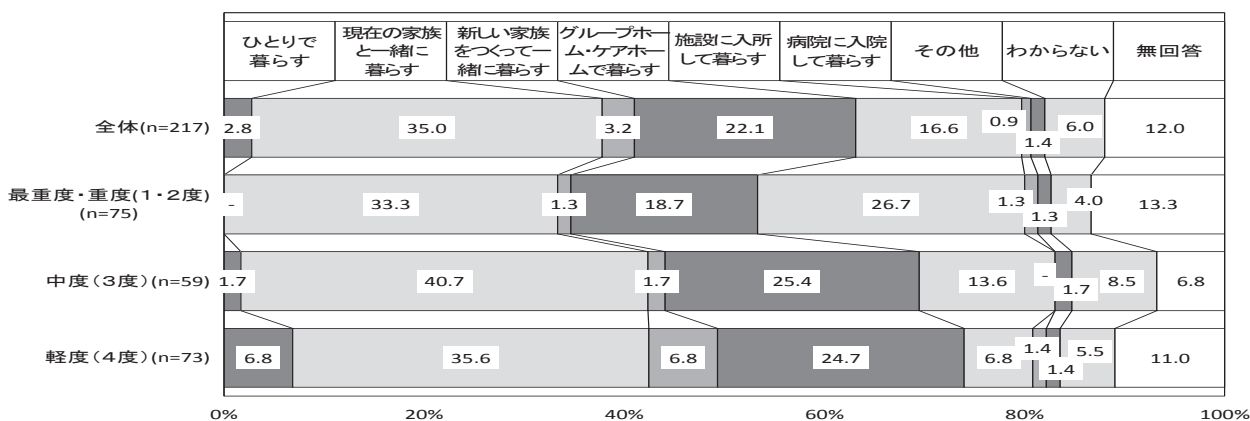
障害の程度別にみると、いずれも「現在の家族と一緒に暮らす」が最も多くなっている。

本人に暮らしてほしい場所



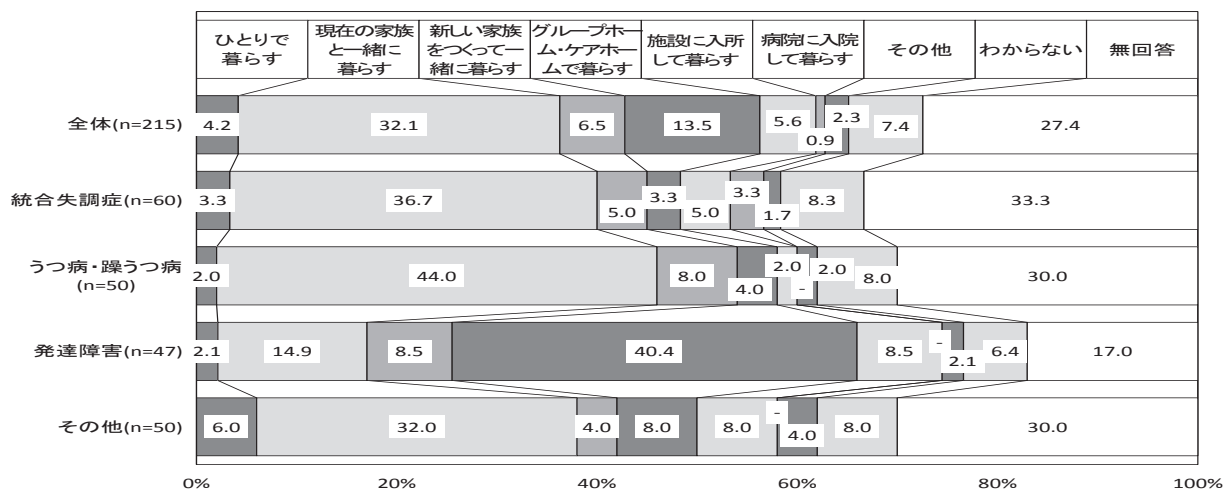
【知的障害者】

障害の程度別にみると、最重度・重度（1・2度）では「施設に入所して暮らす」（26.7%）、中度（3度）、軽度（4度）では「現在の家族と一緒に暮らす」（それぞれ40.7%、35.6%）が多い。



【精神障害者】

診断名別にみると、うつ病・躁うつ病と診断されている人では「現在の家族と一緒に暮らす」（44.0%）、発達障害と診断されている人では「グループホーム・ケアホームで暮らす」（40.4%）がそれぞれ多い。

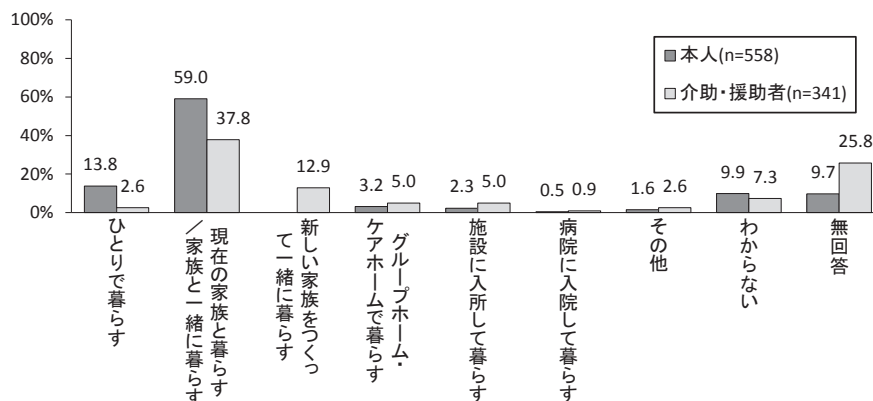


※ベース：介助・援助者

【本人の意向と介助・援助者の意向との比較】

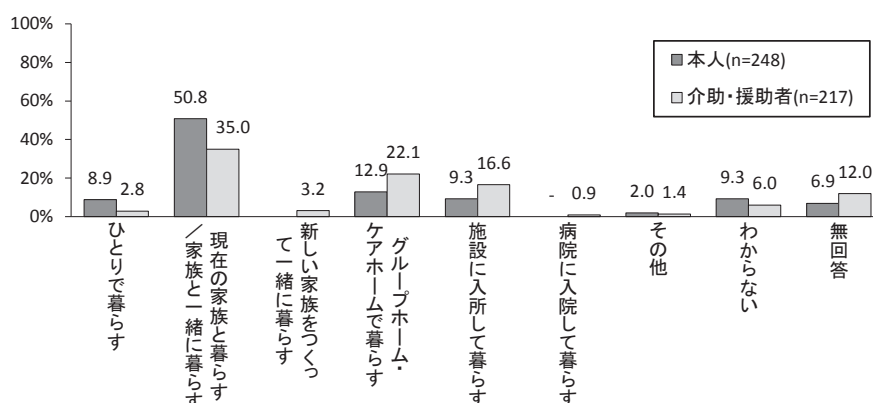
身体障害者では「家族と一緒に暮らしたい」が本人は59.0%であるのに対し、介助・援助者では「現在の家族と一緒に暮らす」が37.8%となっている。また、「ひとりで暮らす」ことについては、本人は13.8%であるのに対し、介助・援助者では2.6%となっている。

【身体障害者】



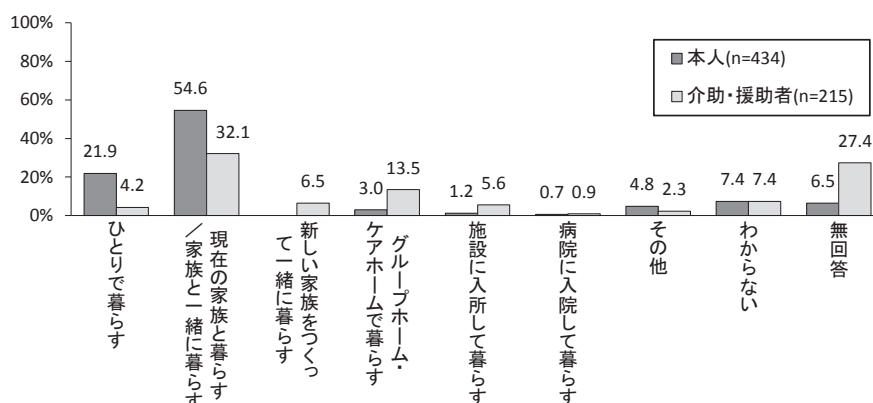
【知的障害者】

知的障害者では、「グループホーム・ケアホームで暮らす」ことは本人が12.9%であるのに対し、介助・援助者では22.1%、「施設に入所して暮らす」ことも本人が9.3%であるのに対し、介助・援助者では16.6%となっている。



【精神障害者】

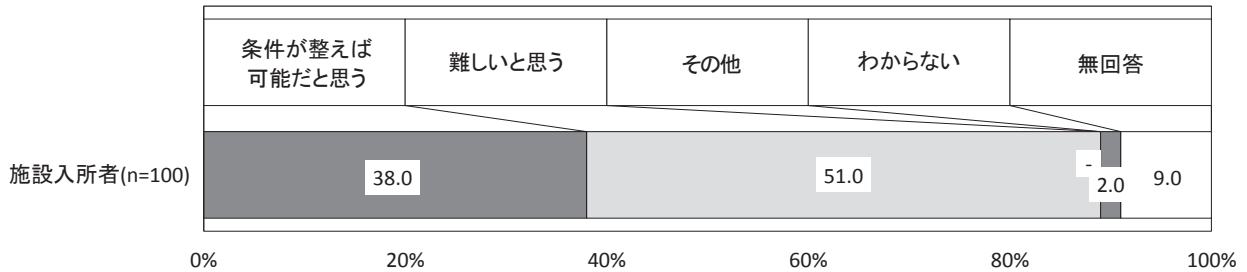
精神障害者では、「ひとりで暮らす」ことについては、本人は21.9%であるのに対し、介助・援助者では4.2%と低い一方、「グループホーム・ケアホームで暮らす」ことは本人が3.0%であるのに対し、介助・援助者では13.5%となっている。



(3) 地域で暮らすことの可能性と地域で暮らすための支援や環境（施設入所者のみ）

① 地域で暮らすことの可能性

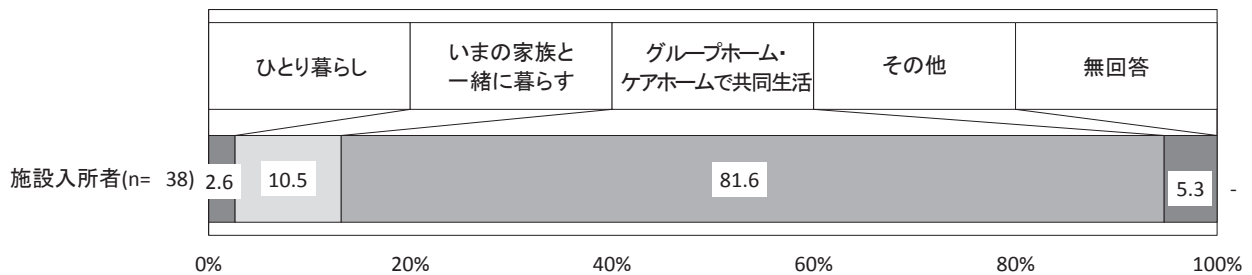
介助・援助者に、今後、本人が施設を出て地域で暮らすことの可能性を聞いたところ、「条件が整えば可能だと思う」が38.0%、「難しいと思う」が51.0%となっている。



※ベース：介助・援助者

「条件が整えば（地域で暮らすことが）可能だと思う」方の地域での暮らし方は、「グループホーム・ケアホームで共同生活（がよいと思う）」が81.6%となっている。

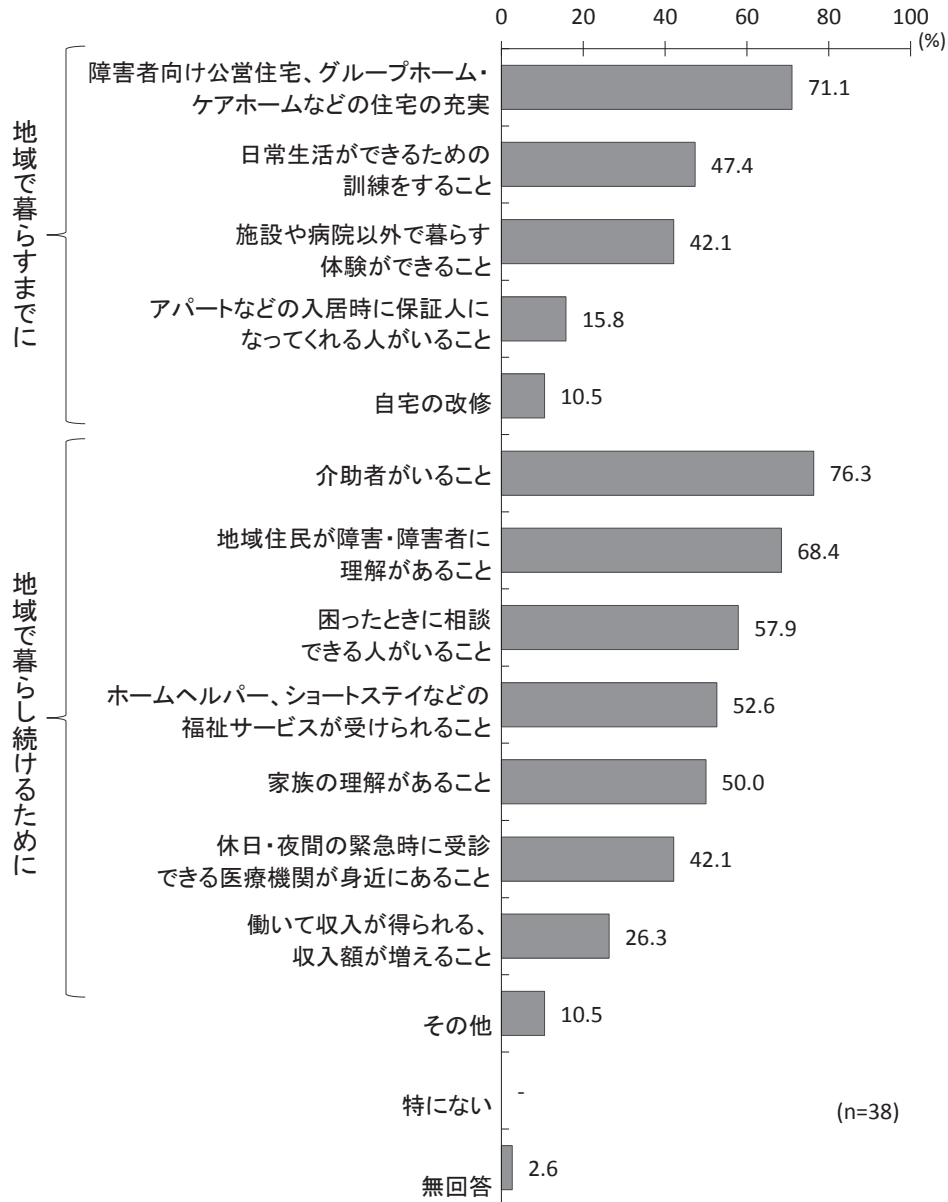
地域での暮らし方



※ベース：条件が整えば地域で暮らす可能性あり

② 地域で暮らすために必要な支援や環境

「条件が整えば可能だと思う」方への地域で暮らすために必要な支援や環境として、“地域で暮らすまでに”では「障害者向け公営住宅、グループホーム・ケアホームなどの住宅の充実」が最も多く71.1%となっている。“地域で暮らし続けるために”では「介助者がいること」が最も多く76.3%、次いで「地域住民が障害・障害者に理解があること」が68.4%、「困ったときに相談できる人がいること」が57.9%となっている。



※ベース：条件が整えば地域で暮らす可能性あり

【施設入所者の「施設からの退所が難しい理由」】（自由回答）

主な意見は、次のとおりである。

- ・24時間のケアが欠かせない。
- ・身体機能や障害状況により難しい。
- ・本人や家族が高齢のため。
- ・就職が難しいため。
- ・本人が現施設での生活を望んでいる。

【地域で暮らすために必要な支援や環境について、本人の意向と介助・援助者の意向との比較】

地域で暮らすために必要な支援や環境についての意向を、本人と介助・援助者で比較すると、「自宅の改修」を除くすべての項目で本人の割合を介助・援助者の割合が上回っており、特に、「介助者がいること」（35.6ポイント差）、「地域住民が障害・障害者に理解があること」（31.4ポイント差）、「障害者向け公営住宅、グループホーム・ケアホームなどの住宅の充実」（30.4ポイント差）については本人の意向を30ポイント以上、上回っている。

(単位：%)

区 分	本人 (n=27)	介助・援助者 (n=38)
日常生活ができるための訓練をすること	33.3	47.4
施設や病院以外で暮らす体験ができること	22.2	42.1
障害者向け公営住宅、グループホーム・ケアホームなどの住宅の充実	40.7	71.1
アパートなどの入居時に保証人になってくれる人がいること	11.1	15.8
自宅の改修	18.5	10.5
家族の理解があること	29.6	50.0
介助者がいること	40.7	76.3
働いて収入が得られる、収入額が増えること	18.5	26.3
地域住民が障害・障害者に理解があること	37.0	68.4
困ったときに相談できる人がいること	33.3	57.9
ホームヘルパー、ショートステイなどの福祉サービスが受けられること	29.6	52.6
休日・夜間の緊急時に受診できる医療機関が身近にあること	29.6	42.1
その他	3.7	10.5
特になし	—	—
無回答	14.8	2.6

※本人のベース：一人暮らし、家族との同居、グループホーム・ケアホームでの暮らしを希望する人

※介助・援助者のベース：条件が整えば地域で暮らす可能性あり

(4) 介助・援助者の意向（自由回答）

主な意見は、次のとおりである。

【身体障害者】

(相談支援・情報提供)

- ・一人ひとりに応じた情報提供の実施
- ・相談窓口の充実
- ・障害者目線の相談・窓口対応の実施

(サービスの利用・内容)

- ・利用手続きの簡素化、審査時間の短縮
- ・タクシー券や助成・割引制度の充実
- ・必要とする障害者がいつでも利用できるよう、サービス内容・施設を充実
- ・医療的ケアを必要とする人の通園・通所施設の整備

(障害児支援)

- ・肢体不自由児が利用できる放課後等デイサービスの充実
- ・義務教育後の教育に関する施策の充実

(就労支援)

- ・障害者の働く所の増設

(社会参加・地域支援)

- ・バリアフリー環境の推進

(介護者・親への支援)

- ・介護者の負担の軽減
- ・レスパイトを目的とした施設の充実

(制度・利用者負担等)

- ・補装具等の器具補助費用の充実
- ・障害者団体の活動への補助金制度の構築

(その他)

- ・所得ではなく、障害程度に応じた施策の実施
- ・親がいなくなっても、1人で安心して暮らしていける場所の増設
- ・障害および障害のある方への理解促進。学校教育・企業内研修などでの普及

【知的障害者】

(相談支援・情報提供)

- ・ワンストップの相談窓口の設置

(サービスの利用・内容)

- ・利用手続きの簡素化
- ・ショートステイを気軽に、また緊急時などに利用しやすくしてほしい。
- ・グループホーム、ケアホームの増設を早期にしてほしい。
- ・就労移行支援、就労継続支援、生活介護等、学校卒業後の日中活動の場の拡充
- ・住まいへの支援の充実
- ・画一的なサービスでなく、個々のニーズに合わせて柔軟な対応が必要である。
- ・家族が暮らす地域の近い場所に、グループホームと働く場が一体化された施設の設置

(障害児支援)

- ・放課後デイサービスの充実

(制度・利用者負担等)

- ・手当にある所得制限の撤廃
- ・障害者が受けられる助成の対象を広げてほしい。障害者がいることで家計の負担が大きい。
- ・放課後デイサービスの費用負担の軽減

(その他)

- ・成長段階や個人差にも対応できる、きめ細やかな施策が必要である。
- ・地域で親亡き後も生活していけるよう、地域に支えてもらい、自分もできる活動や仕事を見つけ周りの方に認めてもらい生活できるような社会にしたい。

【精神障害者】

(相談支援・情報提供)

- ・相談先をわかりやすくして欲しい。窓口の1本化
- ・わかりやすく制度の説明をしてほしい。

(サービスの利用・内容)

- ・職員ではなく、障害者が利用しやすいように、手続き書類の最適化を図る。
- ・グループホームの増設
- ・障害特性に合った多様なグループホームの整備
- ・精神と知的障害の両方の障害を合わせ持つ障害者に対する専門性の高いサービス

(就労支援)

- ・レインボーワークなど就労支援策の充実

(社会参加・地域支援)

- ・エレベーターや障害者が使用できるトイレの充実
- ・法人後見制度の推進

(介護者・親への支援)

- ・家族を支え、導く支援が必要

(制度・利用者負担等)

- ・各種制度における所得制限の撤廃

【難病患者】

(サービスの利用・内容)

- ・介助者の病気や緊急時などに預けることのできる場所の充実

(社会参加・地域支援)

- ・バリアフリー化の推進

(その他)

- ・親がいなくなった時に一人でやっていけるか心配

【施設入所者】

(就労支援)

- ・軽度の障害者の人の雇用の場をもっと広く宣伝してあげてほしい。

(その他)

- ・子どもが人の親になった時を想像し、学校における福祉教育人権教育を進める。